

策定年月	令和5年7月
見直し年月	令和 年 月

麦・大豆国産化プラン

産地名：加東市稲尾地区

(作成主体：加東市農業再生協議会)

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

(1) 六条大麦生産の現状と課題

①現状

- 六条大麦「シュンライ」については、稲尾地区を中心に生産されており、生産面積は増加傾向であるが、単収については、水はけの悪い粘土質の土壌が多く、湿害による収量の低下を招いているため、全国平均を下回っている。

②課題

- (株)A (実需者) から(株)B (集荷業者) に対して、出荷数量を増やしてほしいと要望があり、継続的な需要があることや、単収が全国平均を下回っていることから、単収の向上及び経営面積の拡大が課題である。

(2) 課題解決に向けた取組方針

①排水対策

アッパーカッターロータリの導入による耕うん同時畦立て播種の推進により、排水性を改善させることで、単収を向上させる。

②土づくり

適切な土づくりにより単収の増加が期待できるため、土壌診断の実施と結果に基づいた土壌改良材等の散布を推進することで、単収を増加させる。

③団地化の推進

団地化の推進により作業効率を上げることで、経営面積を拡大させる。

④機械の導入

新たな営農技術の導入により、単収の増加を図るため、アッパーカッターロータリの導入による耕うん同時畦立て播種を推進することで、単収を増加させる。

また、既存機よりも条数の多い播種機の導入を推進し、作業効率を上げることで、経営面積を拡大させる。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針(六条大麦)

連携方針：『需要に応じた生産の定着・拡大を進める。』

〈具体的な取組内容〉

- ・(株)B(集荷業者)を通じて実需者ニーズなどの情報を収集し、生産現場での生産対策に反映させる。

生産数量目標(産地)

(単位:t)

作物名	品種名	R4年産(現状)	R9年産(目標)
六条大麦	シュンライ	27	30
		内、【取組の中心となる農業者】 C営農組合：23	内、【取組の中心となる農業者】 C営農組合：26

取扱数量目標(株)A(実需者)

(単位:t)

作物名	品種名	R4年産(現状)	R9年産(目標)
六条大麦	シュンライ	27	30

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

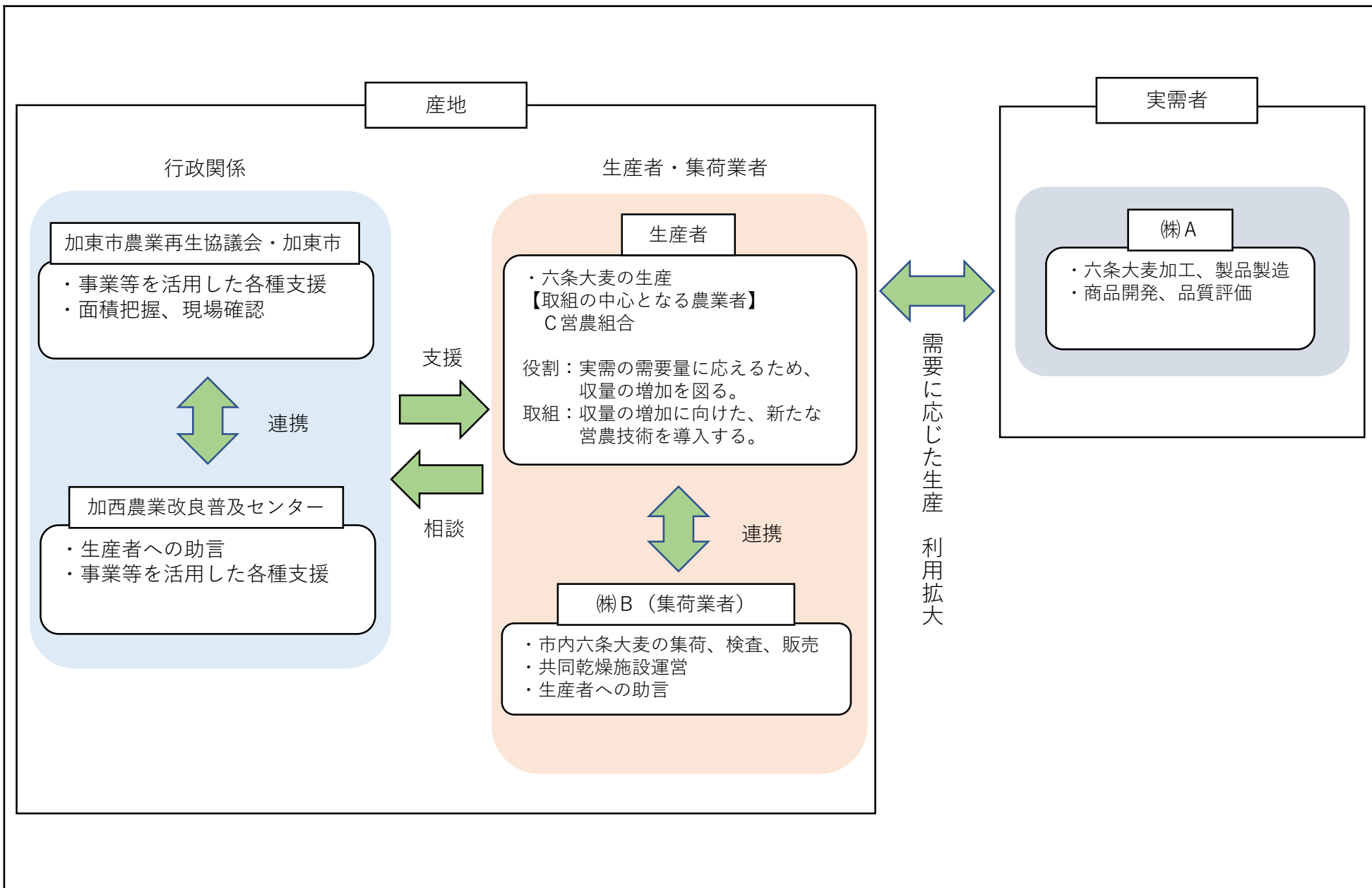
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。